

2022年10月2日 午前礼拝
「私はすべてのことを福音のためにしています」
説教:大木英雄牧師

【メイン聖句】 I コリント 9:23

23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです。

【引用聖句】 I コリント 9:19~23

19. 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。
20. ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。
21. 律法を持たない人々に対しては、一私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが一律法を持たない者のようになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。
22. 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。
23. 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです。

【説教要約】

(A) 預言をする未婚の娘

使徒 21:9, この人には、預言する四人の未婚の娘がいた。

彼女たちは、主から直接メッセージを受け取り、それを語る賜物が与えられていた。ここから「女性でもメッセージを取り次いでもよい」と言う教えを信じている人がいます。しかし、

I コリント 14:34, 35

34. 教会では、妻たちは黙っていなさい。彼らは語ることを許されていません。律法も言うように、服従しなさい。
35. もし何かを学びたければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、妻にとってはふさわしくないことです。

I テモテ 2:11, 12

11. 女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。
12. 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。

ここから女性が男性に向かってメッセージをすることは禁じられています。

(B) アガポの預言を退けたパウロ

使徒 21:10~14

10. 幾日かそこに滞在していると、アガポという預言者がユダヤから下って来た。
11. 彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って、『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふうに縛られ、異邦人の手に渡される』と聖霊がお告げになっています』と言った。
12. 私たちはこれを聞いて、土地の人たちといっしょになって、パウロに、エルサレムには上らないよう頼んだ。
13. するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています」と答えた。
14. 彼が聞き入れようとしないので、私たちは、「主のみこころのままに」と言って、黙ってしまった。

アガポは、エルサレムからアンティケにやってきて、クラウデオの治世に起こった飢饉を預言した人物です。

パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って、『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふうに縛られ、異邦人の手に渡される。』と聖霊がお告げになっています。』と言った。するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています。」と答えた。

パウロがどのような預言に従い、どのような預言に従わないのかの基準は何か？ 弟子訓練の第4課、聖霊のところ、聖霊はあなたが何かを決心するとき、正しい識別力（判断力）を与えてくださる。正しい判断力を身に着けることはとても難しい事です。

滝山教会に富山で宣教をしていた宣教師の息子がいます。その宣教師がいくら富山で伝道しても人が救われないので悩んでいた時、アメリカから聖霊についての教える先生が来られたのでその集会に出ました。すると、1週間笑い続けたのです。その宣教師はこれだと決めてバプテストを辞めてその団体に入ったのです。

その教会の中心人物である、婦人と宣教師は決別して、その宣教師は九州に行きました。しばらくして富山の教会を守っていた夫人が重い病気になり、危篤状態になったとき、九州にいた宣教師が彼女をお見舞いに来ました。そして和解しました。3日後に彼女は召されました。正しい判断力を身に着けることは難しいことです。

(C) ユダヤ人の誤解を解こうとしたパウロ

使徒 21:19, 20

19. 彼らにあいさつしてから、パウロは彼の奉仕を通して神が異邦人の間でなされたことを、一つ一つ話した。

20. 彼らはそれを聞いて神をほめたたえ、パウロにこう言った。「兄弟よ。ご承知のように、ユダヤ人の中で信仰に入っている者は幾万となくありますが、みな律法に熱心な人たちです。

パウロは、「神様が異邦人をいかに愛してくださったか」について証しをした。

使徒 21:21~26

21. ところで、彼らが聞かされている k とは、あなたは異邦人の中にいるすべてのユダヤ人に、子どもに割礼を施すな、慣習に従って歩むな、と言って、モーセにそむくように教えているということなのです。
22. それで、どうしましょうか。あなたが来たことは、必ず彼らの耳に入るでしょう。
23. ですから、私たちの言うとおりにしてください。私たちの中に誓願を立てている者が四人います。
24. この人たちを連れて、あなたも彼らと一しょに身を清め、彼らが頭をそる費用を出してやりなさい。そうすれば、あなたについて聞かされていることは根も葉もないことで、あなたも律法を守って正しく歩んでいることが、みなにわかるでしょう。
25. 信仰に入った異邦人に関しては、偶像の神に供えた肉と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けるべきであると決定しましたので、私たちはすでに手紙を書きました。」
26. そこで、パウロはその人たちを引き連れ、翌日、ともに身を清めて宮に入り、清めの期間が終わって、ひとりひとりのために供え物をささげる日時を告げた。

エルサレムの弟子たちは、パウロに対してして多くの誤解をしていた。パウロは異邦人の中にいる全てのユダヤ人に、「子どもに割礼を施すな」「慣習に従って歩むな」と言って、モーセに背くように教えているという事なのです。

「私たちの中に誓願を立てている者が四人います。パウロの誤解を解くためにパウロにも誓願を立てて欲しい」というのです。ここでは、パウロはパウロに対する誤解を解くために彼らの意見に従った。パウロは何を基準に自分の行動を判断しているのでしょうか。

I コリント 9:19~23

19. 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。
20. ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。
21. 律法を持たない人々に対しては、一私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが一律法を持たない者のようになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。
22. 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。
23. 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをと共に受ける者となるためなのです。

パウロの判断基準は「私はすべてのことを、福音のためにしています。」
それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです。

使徒 21:27~37

27. ところが、その七日がほとんど終わろうとしていたころ。アジアから来たユダヤ人たちは、パウロが宮にいるのを見ると、全群集をあおりたて、彼に手をかけて、
28. こう叫んだ。「イスラエルの人々、手を貸してください。この男は、この民と、律法と、この場所に逆らうことを、至る所ですべての人に教えている者です。そのうえ、ギリシヤ人を宮の中に連れ込んで、この神聖な場所をけがしています。」
29. 彼らは前にエペソ人トロピモが町でパウロといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと思ったのである。
30. そこで町中が大騒ぎになり、人々は殺到してパウロを捕らえ、宮の外へ引きずり出した。そして、ただちに宮の門が閉じられた。
31. 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ローマ軍の千人隊長に届いた。
32. 彼はただちに、兵士たちと百人隊長たちとを率いて、彼らのところに駆けつけた。人々は千人隊長と兵士たちを見て、パウロを打つのをやめた。
33. 千人隊長は近づいてパウロを捕らえ、二つの鎖につなぐように命じたうえ、パウロが何者なのか、何をしたのか、と尋ねた。
34. しかし、群集がめいめい勝手なことを叫び続けたので、その騒がしさのために確かなことがわからなかった。そこで千人隊長は、パウロを兵營に連れて行くよう命令した。
35. パウロが階段にさしかかったときには、群集の暴行を避けるために、兵士たちが彼をかつぎ上げなければならなかった。
36. 大ぜいの群集が「彼を除け」と叫びながら、ついて来たからである。
37. 兵營の中に連れ込まれようとしたとき、パウロが千人隊長に、「一言お話してもよいでしょうか」と尋ねると、千人隊長は、「あなたはギリシヤ語を知っているのか。」

パウロはせっかくユダヤ人の誤解を解こうとして誓願を立てたのだが、アジアから来たユダヤ人が彼らは前にエペソ人トロピモが町でパウロといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと思ったのである。ここでもパウロは誤解されたのです。

彼らがパウロを殺そうとしたときエルサレム中が混乱状態になり、ローマの千人隊長が出て来てパウロを捕らえ混乱状態を治めようとした。そして群衆がパウロを殺しそうになったので、兵士たちが、パウロを担ぎ上げた。そして大勢の群衆が「彼を除け」と叫びながら付いて来ている時に、パウロは千人隊長に「一言お話してもよろしいでしょうか」とパウロは千人隊長に尋ねています。

パウロは何を話したかったのでしょうか。「福音」です。葛西教会では、皆さんが福音を聴く為に来て下さっているので、教壇から福音を語ることは楽しいです。しかしパウロの場合はパウロを殺すために集まっているのです。「私はすべてのことを、福音のためにしています。」それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです。パウロは自分を殺そうとしている人たちに福音を語ろうとしています。

私は大学の親友に地獄のことを語ったら、ものすごく怒って、「自分に納得がいくように説明しなければ、お前とは絶交だ」と手紙で書いてきました。パウロの場合は絶好ではなく殺されるのです。パウロは死を覚悟して福音を語っています。

日本人に地獄のことを語ると嫌われます。私は亀岡教会で地獄のことを語りました。私の弟は「キリストを信じてもよい」と言ってくれました。しかし弟の奥さんが「キリストを信じるように語るのならもう教会へは来ない」と言っていました。然し弟の奥さんは重い病気を持っています。死期が迫っています。

西牟田先生は「死期が迫ってくればキリストを信じるでしょう」と言っていました。私の姉も「キリストを信じなければ地獄へ行く」と言えば絶対に怒ると思います。「福音を信じなければその人は地獄へ行く」と本当に信じていれば、いくら嫌らわれても語ると思います。

パウロは、パウロを殺そうとしている人に「キリストを信じなければ地獄へ行く」と語っているのです。私は「天国と地獄どちらに行きたいですか？」というトラクトを作りました。用いてください。